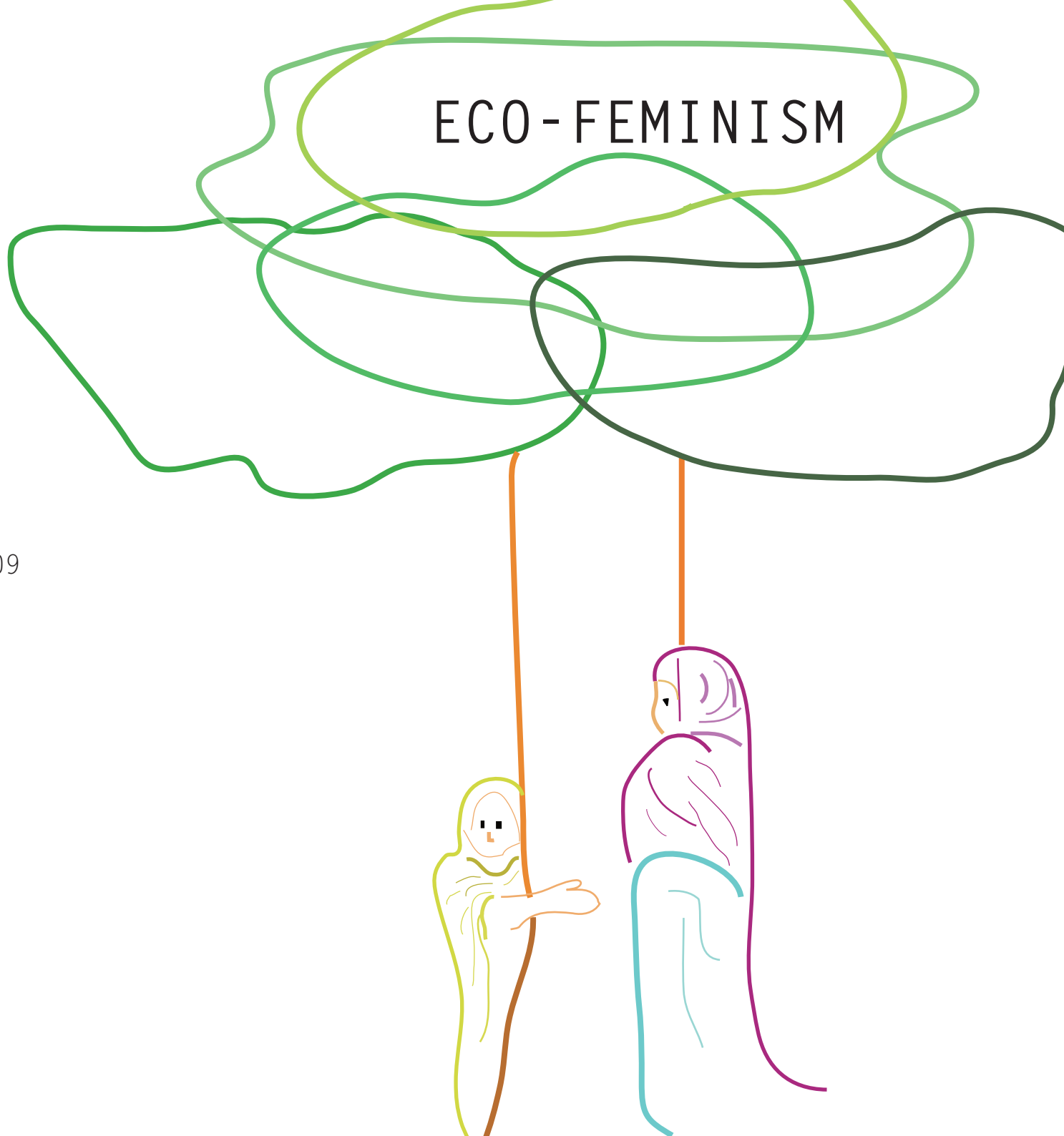


# ECO-FEMINISM



Morimura-Seminar2009

*Natsuko Kasahara*  
*Hiroko Takagi*  
*Toshiya Takahashi*  
*Yuma Katsumata*



## 0. はじめに

私たちは、『8章 エコフェミニズム』を扱う。

エコフェミニズムは、女と自然との結び付きの意識から出現した。エコフェミニストは、フェミニストという立場から、人間と自然の関係性の改善に関心を持つ。

男は、女を支配する。そのため、人間（男）は、自然を支配する。

この観点を確立するエコフェミニズムを、キャロリン・マーチャントは4つに分類する。リベラル・エコフェミニスト、カルチュラル・エコフェミニスト、ソーシャル・エコフェミニスト、ソーシャリスト・エコフェミニストである。

今回の発表では、4つのエコフェミニズムについて分析し、第三世界の女たちの運動を紹介する。環境問題を抜本的に改善するエコフェミニズムはあるのだろうか。

## 1. リベラル・エコフェミニズム

### \* リベラリズムとは？

資本主義を人間の進歩にとって最適の経済構造とする、人間の自然・本性についての理論。

→自己中心的、個人主義

### ■ リベラル・フェミニズムの歴史

17世紀～ 女と男の違いはないが、女が人間としての生を全うできない

→ 教育と経済が原因

20世紀～ 『第二の性』シモーヌ・ドゥ・ボヴォワール（1949年）

『女らしさの神話』ベティ・フリーダン（1963年）

### ■ リベラル・フェミニストにとっての環境問題

- ・ 自然資源の急速な開発
- ・ 環境汚染物質を規制することの失敗

↓

#### 【解決へのアプローチ】

- ・ 環境的観点において社会的再生産を健全化すること
- ・ 女が環境保全の文化的プロジェクトに男と一緒に携わること

### ■ リベラル・フェミニズムに対する批判点

- ・ 資本主義の社会基盤は変わらない
- ・ 持続可能な生産と再生産が困難である

## 2. カルチュラル・エコフェミニズム

### ■ カルチュラル・エコフェミニズムの歴史

1960、70年代～

女と自然は、西洋文化の中で結ばれ、共にその価値を引き下げられたと考える論文「女性の男性に対する関係は、自然の文化に対する関係と同じか？」

シェリー・オートナー (1974年)

### ■ カルチュラル・エコフェミニストの哲学

- ・ 直観、世話活動の倫理、人間と自然の網状の関係性を重視すること
- ・ 人間の本性は人間の生物学的特徴に根拠を持つこと

↓

#### 【解決へのアプローチ】

- ・ 直接的な政治運動  
→ 先史時代を称賛し、女と自然の地位を高め、行動する
- ・ 反科学、反技術の観点から、古代の儀礼を復活させる

### ■ 他のフェミニストからのカルチュラル・エコフェミニストに対する批判点 スーザン・プレンティスの言及から

- ① 男は、自然に対する世話活動の倫理を発達させることができない
- ② 資本主義の自然支配に対する説明、分析の欠如
- ③ 貧困と人種差別の問題を扱っていない

### 3. ソーシャリスト・エコフェミニズム

#### ■ ソーシャル・エコフェミニズム

- ・ ソーシャル・エコロジーの考えを擁護。
- ・ 「経済的・社会的な位階制を打倒することによって女を解放する」

#### ■ ソーシャリスト・エコフェミニズムとは？

- 人間以外の自然＝全生活の物質的基礎
- 食料・衣料・住居・エネルギーは人間の生活に必要な不可欠  
(だから、尽きては困る)



「人間・自然の持続可能な関係」が必要

そのためには・・・

「人間の生産&再生産」を「自然の生産&再生産」に調和させること(=共生・協力の関係)が必要



では、求められる「人間の再生産」とは？

- ① 社会的な再生産＝生存の手段(衣食住)の再生産
- ② 生物学的な再生産＝人間そのものの再生産

#### \* 資本主義的家父長制の批判

- ・ 産業中心の資本主義・・・再生産<生産
- よって、持続不可
- ・ 資本主義の生産方法とは？

  - ① 交換のための商品の生産
  - ② 労働力の生産

cf.)部族的・伝統的生活を送っていた人々のコミュニティ

→ 「人口をその地域の資源とバランスがとれる範囲に維持する儀礼や慣行を発達」

→では、今の第三世界の現状は？

Q. ソーシャリスト・エコフェミニズムの限界とは？

## 4. 女たちによる、「生き延びるための条件を維持する」運動

### ■ 第三世界の女たちの運動

・ヴァンダナ・シヴァ 『科学・技術エコロジー財団』

→自給のための経済と市場向けの経済は同等に扱えない

・インド『チプロ運動』

「ダッソリ村自由集団」(D G S M) のチャンディ・プラサド・バットが牽引  
→1970年代、インド政府や企業による森林伐採に対して、女性を中心として住民による反対運動

→女たちの活躍により、商業目的の伐採は15年間禁止された。

→地域の自然と共存する住民の女たちによる、草の根運動の勝利

・ケニア『グリーンベルト運動』

ワンガリ・マーサイ (ノーベル平和賞受賞「MOTTAINAI」提案) 創設者

「環境の修復と保全、そして……持続可能な開発」を促進することを目的に活動

→現在ケニアを中心にアフリカ大陸に4000万本を植林

→「近代的な」農法の採用によって放棄されていた伝統的なアグロフォレストリーの技術の拡大に力を入れた

### \* 第三世界の女たちが運動する理由

・環境保全を通じて、自分たちの生命を支えるシステムを維持するため

・土地の産出力を再び高めるため

・エコロジカルな多様性を保存するため

### ■ 第二世界の女たちの運動

・科学的でテクノロジーを用いた研究と教育を利用して、緑の運動に関わった

・産業から発生する有毒な汚染物質の影響に対する抗議

### \* 1989年〈女、平和、環境に関する第一回国際会議〉

→地球を守るために、環境主義者として科学者として、もっと多くの女の参加を促す

## 5. おわりに

今回の発表は、「環境問題を抜本的に改善するエコフェミニズムはあるか」という問いから出発をした。  
それに対する答えはこうだ。

「・・・・・・・・。」

リベラル・エコフェミニズムは資本主義構造で活動をする点で、現状と何も変わらない。

カルチュラル・エコフェミニズムは、余りにも神秘的な考えに基づいており、男の役割の分析を提出せず、マイノリティの問題を考慮に入れていない。

ソーシャル・エコフェミニズムは、考え方が人間中心主義に偏っているために、環境問題に対してはおざなりである。

ソーシャリスト・エコフェミニズムは、資本主義構造を改革し、生産－再生産関係を持続可能なものにしようとしている点では、擁護できる。しかし、ソーシャリスト・エコフェミニズムの考えは、第一世界が第三世界に対して、最大限に妥協できる解決案でしかない。環境問題が深刻な地域は、第三世界なのである。彼らは、生き延びるために環境問題に対峙している。

それでは、第一世界の人々は何ができるのか。現時点では、最大限の妥協をすることを努めるしかないであろう。

ただ、女がもつ自然に対する意識は大きい。私たちは、支配される人々（＝女）の現状を知り、行動に移すことが必要である。

# MEMO



